

一般社団法人 日本独文学会

*Japanische Gesellschaft für Germanistik e.V.*

---

ニュースレター2021 春号

*JGG-Info-Blatt / Frühling 2021*

## まえがき

会員の皆様,

今理事会としては最後の Infoblatt となりました。

任期の後半はコロナに振り回されているうちに終わろうとしています。3 ゼミは、中止と Zoom 開催というきわめて変則的な形となり、学会もオンライン開催となりました。そのオンライン学会も、資料と原稿を学会 HP に載せて、期間限定で質疑応答をするという形から、オンデマンドとオンラインリアルタイムを並行させる形へ進化していきました。この間、3 ゼミ担当理事と実行委員会、学会の担当支部と担当校、企画担当理事、広報担当理事と広報委員会の皆さんには本当にお世話になりました。オンライン開催に関してはかなりのノウハウが蓄積されたと思います。

それにつけても懐かしく思い出されるのは現地で開催された学会と学術会議のことです。本当にずいぶん昔のことに思えます。2019 年 10 月の成城学会が、現地での最後の学会でした。オンライン独自の良さも明らかになってきましたが、会場を移動しながらいろいろな人たちと出会っていく場の大切さも痛感しています。また、アジア・ゲルマニスト会議もとても貴重な思い出となりました。現在はきわめて制限された状況がつづいていますが、海外との学術交流の拠点として学会が果たすべき役割は今後も重要性を増していくと確信しております。

最初のごあいさつで今理事会の課題として挙げていたものについて、簡単なご報告をさせていただきます。

まず挙げたのが「安定化・スリム化」でした。一般社団法人化に伴い、事務的にこれまでと違うことが数多く出てきて戸惑うことも多かったのですが、一つ一つ問題を解決していくにあたっては、特に庶務担当理事の皆さんにたいへんお世話になりました。財務処理の仕方も大きく変わり、新しい財務・経理の仕組みを立ち上げるにあたっては、会計担当理事に御尽力いただきました。

〈学術情報の発信〉〈人的交流の促進〉〈後進の育成〉に関して学術性を担保しつつスリム化することを目標としたのですが、コロナ対策に追われるなか、この問題に包括的に取り組むとまではいかなかったことは残念です。そんななかでも、理事や委員会の皆さんから、担当部署についてのさまざまなアイディアを出していただきました。また会議をオンライン化することによりかなりの額の交通費が節約されるようになりましたが、コロナがなければこうした形のスリム化は思いもよらなかったことでした。ただ、会員の減少等を見据えた活動形態の具体的な見直しという課題は残っています。その一つとして機関誌のありかたについては、

担当理事のご尽力により、アンケートを踏まえながら、大きな方向性を次期理事会に引き継ぐことができるのではないかと思います。

「学会の事業に携わってくださっている方々で、なにかつらい思いをされることがあったとしても、いまはそれを申し立てる場所がない、なにか手段を講じるべきではないか」というデリケートな問題も検討課題としました。これについては、現在ハラスメントワーキンググループで集中的な議論がなされているところです。機関誌アンケートと同じく、ワーキンググループのアンケートにも多くの回答をお寄せいただきました。会員の皆様のご協力に御礼申し上げます。

また、「学会の社会的責任」に関して態度表明を迫られることもあるのではないかと、との予想は「学術会議」問題という形で現実のものとなりました。理事会で真剣に討議していただき、その議論を踏まえ、理事会と会長を意思表示の主体としての声明文といたしました。その後、問題は解決されるにはいたっておりません。

最後になりますが、学会 HP がすっかり様変わりしたことにお気づきのことと思います。これは表だけの变化ではなく、サーバーの移行という目に見えない部分での大きな作業を伴ったものです。コロナ禍での告知量の増加、オンライン会議・学会と業務が重なるなか、広報担当理事と広報委員会の皆さんには本当に大変なお仕事に当たっていただきました。機関誌、3ゼミ論集の J-STAGE での公開や研究叢書のオンライン化についてもさまざまな改善が施され、データベースの移行も本格的な作業にかかろうとしています。

いろいろなことが、大きな変化を遂げました。理事会と各種委員会の皆さん、そして会員の皆様に支えられ、なんとかやってまいりました。これまでのご協力にあらためて御礼申し上げ、独文学会へのさらなるお力添えをお願いしつつ、ご挨拶とさせていただきます。

宮田 眞治

# 目 次

## まえがき

### ご案内

一般社団法人日本独文学会第三回総会・春季研究発表会のご案内 秋季研究発表会について	1
2021 年秋季研究発表会のご案内	2
Bekanntmachung der Herbsttagung der JGG 2021 研究会開催のための会場借用について	3
Raumbenutzung bei der Herbsttagung der JGG 2021 学会当日の机・椅子の借用について	4
Infotische auf der Herbsttagung der JGG 2021 会費納入について	5
ドイツ語教育部会総会のお知らせ	6
第 48 回語学ゼミナール開催のお知らせ	7
48. Linguisten-Seminar der JGG	8
DAAD からののお知らせ	11
ゲーテ・インスティトゥート奨学金のお知らせ	12
一般社団法人日本独文学会岩崎奨学金（出版助成）のお知らせ	14
	16
	22
	25

### 報告

第 18 回日本独文学会・DAAD 賞選考結果	28
日本独文学会 2020 年度秋季研究発表会報告	29
語学ゼミナール・オンライン 2020 報告	30
日本独文学会研究叢書既刊一覧	34
2020 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告	35
支部報告	37
ドイツ語教育部会報告	44
ドイツ語学文学振興会より	46
2020 年度全国大学院 Germanistik 関係論文題目	47

### その他

訃報	51
----	----

### あとがき

52

## 一般社団法人日本独文学会第三回総会・春季研究発表会のご案内

東京大学で予定されていた第三回総会および2021年春季研究発表会は、Covid-19感染状況に鑑みて、学会契約の ZOOM を使ったリアルタイム配信によるオンライン形式をとることになりました。6月5日(土)6日(日)という日程に変更はありません。

### Bekanntmachung der 3. Vollversammlung und der Frühlingstagung 2021 der JGG

Aufgrund der Covid-19-Pandemie werden die 3. Vollversammlung und die Frühlingstagung 2021 am 5. und 6. Juni online per Zoom abgehalten.

日本独文学会理事会  
企画担当 山本浩司

i. A. des JGG-Vorstands  
Hiroshi Yamamoto

## 2021 年秋季研究発表会のご案内

下記の通り、2021 年秋季研究発表会を開催いたします。

期 日：2021 年 10 月 2 日（土）、3 日（日）  
会 場：東北大学川内南キャンパス  
〒980-0862 宮城県仙台市青葉区川内 27-1  
<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/campus/01/access/>

研究発表をご希望の方は「発表申込書 1（申込者情報）」（Excel 形式）をダウンロードし、「発表申込書 2（発表概要）」（Word 形式）と共に電子メールによる添付ファイルとして下記宛にお送りください。その際、必ず「研究発表申し込み要領（2020 年 2 月 1 日改訂）」を熟読ください。申し込み審査のガイドラインもここに記載されています。

申込締切： **2021 年 7 月 1 日（木）**  
申込先： **tagung2021tohoku\_AT\_jgg.jp**（\_AT\_ は @）  
申込要領と申込書ダウンロードの掲載箇所：  
「日本独文学会サイト（<http://www.jgg.jp/>）」  
→「研究発表会」  
→「研究発表申し込み / Referatsanträge」

## **Bekanntmachung der Herbsttagung 2021**

Die Herbsttagung der JGG findet statt:

am Sa., 2. und So., 3. Oktober 2021  
an der Universität Tohoku, Kawauchiminami-Campus:  
27-1 Kawauchi, Aoba-ku, Sendai, Miyagi 980-8576 Japan  
[https://www.tohoku.ac.jp/en/about/map\\_directions.html](https://www.tohoku.ac.jp/en/about/map_directions.html)

Wenn Sie sich als Referent/in bewerben möchten, senden Sie bitte das ausgefüllte Antragsformular per E-Mail als Attachment

bis zum **Do., 1. Juli 2021**

E-Mail: [tagung2021tohoku\\_AT\\_jgg.jp](mailto:tagung2021tohoku_AT_jgg.jp) (\_AT\_ steht für @)

Beachten Sie dabei die „Modalitäten zur Bewerbung für Referate auf den JGG-Tagungen (revidiert am 1. Februar 2020)“! „Die Modalitäten“ und das „Antragsformular“ befinden sich unter:

Homepage(<http://www.jgg.jp/>) > „deutsch“ > „Tagungen“ > „Referatsanträge“

März 2021  
Vorstand der JGG

## 研究会開催のための会場借用について

2021 年度秋季研究発表会の折に研究会開催のための会場の借用をご希望の場合は、下記の要領でお申し込みくださいますようお願いいたします。

### 記

#### 1) 申し込み方法

「研究会会場借用申し込み」と記し、必要事項 a) ～ e) をご記入のうえ、電子メールでお申し込みください。

- ・ 申し込み期限：2021 年 7 月 1 日（木）[必着]
- ・ 申し込み先：tagung2021tohoku\_AT\_jgg.jp（\_AT\_ は @）
  - a) 研究会の名称
  - b) 責任者氏名・所属先および連絡先（電話番号，電子メールアドレス）
  - c) 借用を希望する時間帯：10 月 3 日（日）  
13:15 ～ （終了時間）
  - d) 使用目的
  - e) 参加予定人数 名（そのうち本学会員 名）

#### 2) 会場借用の時間帯

借用可能な時間帯は，学会 2 日目 10 月 3 日の午後（13:15～16:00）です。

#### 3) 会場使用料

教室の使用に際しましては一定の使用料をいただくことになります。料金については，使用教室のご案内とともに，日本独文学会事務局より開催約 1 ヶ月前にお知らせします。

- ◎ 商行為を行うことはできません。
- ◎ 詳細は研究会責任者にご連絡いたします。

## **Zur Beantragung der Raumbenutzung bei der JGG-Herbsttagung 2021**

Vereinen oder Arbeitsgruppen der JGG kann auf Wunsch bei der JGG-Herbsttagung 2021 ein Raum zur Verfügung gestellt werden. Bei Interesse melden Sie sich bitte per E-Mail rechtzeitig im Büro der JGG! Aus Gründen der begrenzten Anzahl der zur Verfügung gestellten Räume und je nach Gegebenheiten des Veranstaltungsortes können unter Umständen nicht alle Wünsche berücksichtigt werden oder es kann Einschränkungen geben. Bei der Raumbenutzung muss der Antragsteller mit entstehenden Kosten rechnen.

Anmeldefrist: **Do., 1. Juli 2021**

E-Mail: **tagung2021tohoku\_AT\_jgg.jp** (\_AT\_ steht für @)

Die Beantragung soll folgende Angaben beinhalten:

- a) Name des Vereins / der Arbeitsgruppe:
- b) Name und Kontaktadresse des / der Verantwortlichen  
(mit Telefonnummer und E-Mail-Adresse):
- c) Gewünschter Zeitraum (Uhrzeit von ... bis ...) am So., 3. Oktober 2021  
Möglicher Zeitraum: 13.15 bis 16.00 Uhr
- d) Verwendungszweck
- e) Teilnehmerzahl:  
(darunter: Zahl der Mitglieder der JGG ):

Geschäftliche Transaktionen sind nicht gestattet.

Nach Bearbeitung der Anmeldung wird der Antragsteller etwa einen Monat vor der Tagung über die Einzelheiten benachrichtigt.

März 2021  
Vorstand der JGG

## 学会当日の受付用机・椅子の借用について

2021年秋季研究発表会の会場において、受付用に机・椅子の借用をご希望の場合は、下記の要領でお申し込みくださるようお願いいたします。

### 記

#### 申し込み方法

「机・椅子の借用申し込み」と記し、必要事項 a) ～ f) をご記入のうえ、電子メールでお申し込みください。

- ・申し込み期限：2021年7月1日（木）[必着]
- ・申し込み先：tagung2021tohoku\_AT\_jgg.jp（\_AT\_ は @）  
(学会担当校宛ではありませんのでご注意ください。)

- a) 団体または研究会の名称
- b) 責任者氏名・所属先および連絡先（電話番号，メールアドレス）
- c) 借用希望日と希望時間：1日目は10：00～17：30の間，  
2日目は10：00～13：00の間  
で具体的な時間をお知らせ下さい。
- d) 使用目的
- e) 机・椅子の借用希望数：机（通例2人掛け） \_\_\_\_\_ 卓，椅子 \_\_\_\_\_ 脚
- f) 受付アルバイトの手配を希望する場合は，その人数をお知らせください。ただしアルバイト代は団体・研究会がお支払い下さい。

- ◎ 商行為を行うことはできません。
- ◎ 詳細は団体・研究会の責任者にご連絡いたします。

## **Zur Beantragung von Infotischen auf der JGG-Herbsttagung 2021**

Vereine oder Arbeitsgruppen der JGG können auf Wunsch auf der JGG-Herbsttagung 2021 einen Infostand aufstellen. Bei Interesse melden Sie sich bitte per E-Mail rechtzeitig im Büro der JGG! Aus Platzgründen und je nach Gegebenheiten des Veranstaltungsortes können unter Umständen nicht alle Wünsche berücksichtigt werden oder es kann Einschränkungen geben.

Anmeldefrist: **Do., 1. Juli 2021**

E-Mail: **tagung2021tohoku\_AT\_jgg.jp** (\_AT\_ steht für @)

Die Beantragung soll folgende Angaben beinhalten:

- a) Name des Vereins / der Arbeitsgruppe:
- b) Name und Kontaktadresse des/der Verantwortlichen  
(mit Telefonnummer und E-Mail-Adresse):
- c) Gewünschte/r Tag/e (erster bzw. zweiter Tagungstag oder beide Tage) und gewünschter Zeitraum (Uhrzeit von ... bis ...)  
(Möglicher Zeitraum am 1. Tagungstag: 10:00 bis 17:30,  
am 2. Tagungstag: 10:00 bis 13:00)
- d) Verwendungszweck
- e) Anzahl der benötigten (normalerweise zweisitzig) Tische und Stühle
- f) Studentische Hilfskräfte gewünscht?  
(Die entsprechenden Kosten gehen zu Lasten des Antragstellers.)

Geschäftliche Transaktionen sind nicht gestattet.

Nach Bearbeitung der Anmeldung wird der Antragsteller über die Einzelheiten benachrichtigt.

März 2021  
Vorstand der JGG

## 会費納入について

会員の皆様におかれましては、すみやかな会費納入にご協力いただきありがとうございます。

事務局では会員お一人お一人の会費ご納入に関して、年間を通じ必要に応じてご連絡を差し上げています。その際にご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また、以下の点をご確認ください。

### 【会費割引制度】

前年度末までに 80 歳になられた方、常勤職をお持ちでない方、学生の方は、ご本人からのお申し出によって、年会費の割引を受けられます。会費規程をご確認の上、事務局までお申し出ください。

### 【口座自動振替によるご納入】

口座自動振替のお申込みは随時受け付けています。まだお申込みでない方は是非ご検討ください。申込書をお持ちでない方は事務局までご連絡ください。お申込みくださった時点でその年度の手続き締切りに間に合わなかった場合は、自動的に次年度開始の扱いとなります。その年の年会費は振込にてご納入くださるようお願い致します。

2021 年度振替日は 7 月 1 日（木）ですので、すでにご登録の方は事前に口座残高をお確かめいただけますと幸いです。また、振替口座等の変更や年会費割引のお申し出は 4 月末までに事務局までご連絡ください。振替日は年に一度のみです。7 月 1 日（木）に振替ができなかった場合は、郵便振込をお願いしています。

### 【郵便振込によるご納入】

口座自動振替をお申込みいただいてない方には、5 月、6 月の間に学会年会費納入のお願いと払込取扱票をお送りする予定です。

以上、よろしくようお願い申し上げます。ご不明の点、ご質問は事務局（TEL./FAX：03-5950-1147, Mail フォーム：<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>）までお問い合わせください。

日本独文学会事務局

## 一般社団法人日本独文学会会費規程

(目的)

第1条 この規程は、定款第7条の規定に基づき、入会金及び会費の納入に関し、必要な細則を定めるものとする。

(入会金)

第2条 会員は入会金として1,000円を納入しなければならない。

(入会金の納期)

第3条 入会金は、この法人から入会承認の通知を受けた日から30日以内に納入しなければならない。

(会費)

第4条 会員は、次の会費(年額)を納入しなければならない。

正会員	10,000円
賛助会員	30,000円(学术交流団体など非営利団体の場合10,000円)

(会費の納期)

第5条 会員は、当該事業年度開始の7月末日までに、会費年額の全額を納付しなければならない。

(会費の減免)

第6条 4月1日現在で常勤職を持たない正会員の当該年度会費は、本人の申告に基づいて8,000円とする。

- 2 4月1日現在で大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する正会員の当該年度会費は、本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は、6月1日までに学生証ないしはそれに相当する証明書のコピーを郵送もしくはファックスで学会事務局に提出することによって行うものとする。
- 3 4月1日現在で満80歳以上の正会員の年度会費は、本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は6月1日までに行うものとする。
- 4 会費の減免は申告が受理された年度から適用し、遡って適用されることはない。
- 5 常勤職を持たない正会員が常勤職に就いた場合は、身分が変わった直後の4月20日までに身分の変更を学会事務局に届け出るものとする。
- 6 大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する正会員の身分に変更があった場合は、身分が変わった直後の4月20日までに身分の変更を学会事務局に届け出るものとする。

(使用目的)

第8条 入会金及び会費は次の各号に定める事項に使用する。

- (1) 本会の運営
- (2) 本会の機関誌等の発行

(細則)

第9条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、理事会の決議により別に定めることができる。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、総会の決議による。

附 則

この規程は、2019年4月1日から施行する。

## ドイツ語教育部会総会のお知らせ

日時：2021年6月6日（日）12時45分～13時15分

会場：東京大学 オンライン形式での開催

議題

### I 報告事項

- 1) 2020年度活動報告
- 2) その他

### II 審議事項

1. 2020年度決算報告
2. 2021年度予算について
3. 幹事嘱任について
4. その他

### III 会員からの意見開陳

## 第 48 回語学ゼミナールのお知らせ

2021 年 3 月

日本独文学会第 48 回語学ゼミナールを下記の要領で開催いたします。今日、言語学で分野横断的に議論される「心態詞 (Modalpartikel)」をテーマに、文構造や情報構造の概念を手がかりにしつつ、文中での心態詞の制限や共起現象の可能性を考えます。この関連で標準ドイツ語だけでなく、方言や周辺言語に出現する心態詞も取り上げられる予定です。また、例年どおり日本側参加者による研究発表も歓迎します。みなさまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

※コロナウィルスの状況次第で開催要領に変更があり得ます。学会 HP の最新情報にご注意ください。

### 記

**総合テーマ**      Deutsche Modalpartikeln und Satzarchitektur

**招待講師**      Josef Bayer 教授 (コンスタンツ大学)

※ご経歴や業績等についてはこちらをご参照ください。

<https://www.ling.uni-konstanz.de/prof-dr-josef-bayer/>

**期 間**            2021 年 8 月 30 日 (月) ~ 9 月 2 日 (木)    3 泊 4 日

**会 場**            コープイン京都  
〒604-8113 京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル井筒屋町 411  
<http://www.coopinn.jp/>

**定 員**            40 名

**参加費**           3 万 4 千円 (会員), 4 万 4 千円 (非会員)

※内訳：参加基本料, 宿泊代および朝・夕食代

※学生および専任職を持たない若手会員については、所属機関等から出張費等の支援を受けていないことを条件に、参加費補助を行います。加えて、遠方からの参加の場合、旅費の補助も検討します。

### 申込方法

以下のフォーム (外部リンク : Google Form) にアクセスし、必要事項をご記入の上、参加申込を行ってください。

LS2021 Anmeldeformular :

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdqjWUhdqOIEzktPVwRprvdGL3oigKxos-xMVYgJr8sjE0ZUw/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdqjWUhdqOIEzktPVwRprvdGL3oigKxos-xMVYgJr8sjE0ZUw/viewform?usp=sf_link)

申込締切 2021年6月13日(日)

問合せ先 語学ゼミナール実行委員会 (LS[\_AT\_]tufs.ac.jp)

#### その他

- 参加申込みの承認は、日本独文学会理事会にて行われます。参加者正式決定の通知は6月下旬～7月上旬を予定しています。
- 研究発表を希望される方は、ドイツ語 250 語程度のアブストラクトを添付してください。上述の参加者決定後、より詳細な発表要旨を提出していただきます。発表の採否は実行委員会にご一任願います。
- ゼミナール終了後、Bayer 教授による講演会の開催を希望する大学を募集します。Bayer 教授からは講演可能なテーマとして、以下のものが提案されています：

- 1) Formale Prinzipien und interpretatorische Lücken: Über den Umgang mit Paradoxien
- 2) Was ist Verb-Zweit?
- 3) Kasus und Kasusdefizienz in der verbalen und in der adpositionalen Domäne

講演会開催をご希望の方はゼミナールの申込締切日までに実行委員会にお申し出ください。その際、可能な限り謝金の支払いをご検討いただければ幸いです。なお、講演会場までの交通費や開催地でのお世話を講演会主催者にご負担いただく場合がございます。詳細はゼミナール実行委員会にご相談ください。また、講演会開催や講演テーマ等の最終決定は、ゼミナール実行委員会にご一任願います。

日本独文学会・語学ゼミナール実行委員会  
藤縄康弘(委員長)

## **48. Linguisten-Seminar der JGG**

### **Kyoto, 30. Aug. – 2. Sept. 2021**

Das 48. Linguisten-Seminar der Japanischen Gesellschaft für Germanistik wird dieses Jahr in Kyoto unter folgendem Rahmen veranstaltet. Über eine zahlreiche Teilnahme würden wir uns sehr freuen.

\*Coronabedingte Änderungen vorbehalten. Achten Sie auf die aktuellen Informationen auf der JGG-Webseite.

**1. Rahmenthema:**

Deutsche Modalpartikeln und Satzarchitektur

**2. Gastdozent:**

Prof. Dr. Josef Bayer (Universität Konstanz)

<https://www.ling.uni-konstanz.de/prof-dr-josef-bayer/>

**3. Termin:** Montag, 30. August bis Donnerstag, 2. September 2021

**4. Ort:** Hotel CO-OP Inn Kyoto (Einzelzimmer)

Yanaginobamba Str. North of Takoyakushi, Nakagyo-ku, Kyoto 604-8113

URL: <http://www.coopinn.jp/>

**5. Max. Teilnehmerzahl:** 40

**6. Anmeldung:**

Bewerbung per Google Form „LS2021 Anmeldeformular“:

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdqIWUhdqOIEzktPVwRprvdGL3oigKxos-xMVYgJr8sjE0ZUw/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdqIWUhdqOIEzktPVwRprvdGL3oigKxos-xMVYgJr8sjE0ZUw/viewform?usp=sf_link)

**7. Teilnahmegebühr:\***

34.000 Yen (bei JGG-Mitgliedschaft oder Mitgliedschaft zu den mit der JGG in freundlicher Verbindung stehenden germanistischen Verbänden in asiatischen Ländern) bzw. 44.000 Yen (ohne JGG-Mitgliedschaft) sind a.O. zu zahlen.

\*In der Teilnahmegebühr inbegriffen sind die Grundgebühr, Übernachtung, Frühstück und Abendessen. Für Studierende sowie Teilnehmer\*innen ohne feste Anstellung sind unter Umständen Gebührenermäßigungen und/oder Reisekostenzuschüsse möglich.

## **8. Anmeldeschluss:** Sonntag, 13. Juni 2021

Die Auswahl der Teilnehmer\*innen bleibt dem JGG-Vorstand vorbehalten.

### **Vortragsbeiträge zu allgemein linguistischen Themen**

Beim Linguisten-Seminar besteht für die Teilnehmer\*innen auch die Möglichkeit, ein etwa 30-minütiges Referat zu allgemein linguistischen Themen zu halten. Für die Anmeldung eines Referats (ebenfalls bis zum 13. Juni 2021) ist die Angabe des geplanten Titels sowie die Zusendung eines Abstracts (ca. 250 Wörter) erforderlich. Die Auswahl der Beiträge bleibt dem Organisationsausschuss vorbehalten.

### **Zusätzliche Veranstaltung von Vorträgen des Gastdozenten**

Wir bitten außerdem um reges Interesse an weiteren Einladungen von Prof. Dr. Bayer für zusätzliche Vorträge an Ihren Universitäten nach dem Abschluss des Linguisten-Seminars. Dafür sind von Prof. Dr. Bayer folgende Themenbereiche vorgeschlagen:

- 1) Formale Prinzipien und interpretatorische Lücken: Über den Umgang mit Paradoxien
- 2) Was ist Verb-Zweit?
- 3) Kasus und Kasusdefizienz in der verbalen und in der adpositionalen Domäne

Anmeldungen dazu werden ebenfalls bis zum 13. Juni 2021 angenommen. Honorarzahlungen sind nicht erforderlich, aber durchaus willkommen. Unter Umständen kann es vorkommen, dass die Reisekosten zu den Vortragsorten zu Lasten der einladenden Institution gehen. Um Verständnis bitten wir auch dafür, dass die Entscheidung über die Vortragsorte, -themen u.Ä. letztendlich beim Organisationsausschuss des Linguisten-Seminars liegt.

Organisationsausschuss des 48. Linguisten-Seminars  
Yasuhiro Fujinawa (Leitung)  
E-Mail: LS[\_AT\_]tufs.ac.jp

## DAAD からのお知らせ

### DAAD イベントについてのご案内

ドイツ学術交流会（DAAD）は定期的に様々なオンラインイベントを開催しています。4月・5月は下記のイベントを開催予定です。ぜひご周知の程お願い申し上げます。

#### ① 4/8（木）開催：ドイツ留学オンライン説明会

毎月開催しているオンライン説明会です。4月はドイツのフルダ大学の修士課程に留学をされている日本人学生の方にゲストでご参加頂き、お話を伺います。特に、総合大学（Universität）と応用科学大学／専門大学（HAW/FH）の違いについても詳しくお話をする予定です。詳細と申し込みはこちらから：

[https://www.daad.jp/ja/2021/03/22/online-seminar\\_210408/](https://www.daad.jp/ja/2021/03/22/online-seminar_210408/)

#### ② 4/20（火）～22（木）開催：ドイツの大学に聞いてみよう

6つのドイツの大学の担当者が、各大学のプログラムについて紹介をします。説明会の途中にはチャットで直接質問をすることも可能です。詳細はとお申し込みはこちらから：

<https://www.daad.jp/qCWc7>

#### ③ 5/7（金）～8（土）開催：オンラインセミナー「Fremdsprachen digital unterrichten – mit Sinn, Freude und Verstand」

Jörg Roche 教授と Isabel Hoffmann 氏（LMU Munich）によるオンラインセミナーのご案内です。

テーマ：Fremdsprachen digital unterrichten – mit Sinn, Freude und Verstand

日時：2021年5月7日/8日（Zeit zufuegen?）

言語：ドイツ語（日本語による質問可）

申込期間：4月22日から5月6日まで下記ウェブサイトにて申込受付

<https://www.daad.de/surveys/616378?lang=de>

### プログラム

2021年5月7日（金）18:00～20:00（日本時間）。

基調講演「外国語教育におけるデジタルメディアの功罪について」Roche 教授

2021年5月8日（土）15:00～18:30（日本時間）

Dhoch3-モジュール3に関するワークショップ。メディアを利用した教授法や、授業で使える最新のツールやプログラムに焦点を当てます（日本在住のドイツ語教員対象）

Dhoch3 -モジュールに関しては、オンデマンド動画を用意してありますので、好きな時間にご視聴いただいて詳細をご確認いただけます。また、金曜日のセミナーの前に、ムードルに関する質疑応答の時間を設けておりますので、ご利用ください。

詳細はこちらをご覧ください:

[https://www.daad.jp/files/2021/03/2021\\_Dhoch3\\_Japan\\_Programm.pdf](https://www.daad.jp/files/2021/03/2021_Dhoch3_Japan_Programm.pdf)

なお、一部のプログラムだけご参加いただくことも可能です。

皆様のご参加をお待ちしております。

#### **DAAD 奨学金についてのご案内**

下記、まだ募集中の奨学金プログラムをご紹介します。締め切りが近いですので、ご興味のある方はお急ぎください。詳細につきましては DAAD のホームページをご確認ください：<https://www.daad.jp/scholarships>

#### **③ 研究奨学金（短期）【締切：4/8】**

対象：修士号、博士号を取得した又は取得見込みの方、および若手研究者  
給付期間；1～6ヶ月  
審査方法：書類審査のみ

#### **④ 大学教員・研究者のための研究滞在奨学金【締切：4/8】**

対象：日本国内の大学・研究機関において職務についている博士号取得者  
給付期間；1～3ヶ月  
審査方法：書類審査のみ

#### **⑤ 元 DAAD 奨学生の再招待 【締切：4/8】**

対象：過去に6ヶ月以上 DAAD より助成を受けた者  
給付期間：1～3ヶ月

審査方法：書類審査のみ

新型コロナウイルスの影響により、今後募集内容に変更がある可能性もありますので、最新情報は常に DAAD 東京事務所のホームページ ([www.daad.jp](http://www.daad.jp)) をご確認ください。

何かご不明な点がございましたら、[kurushima\\_AT\\_daadjp.com](mailto:kurushima_AT_daadjp.com) (\_AT\_ は @) までお問い合わせくださいませ。

以上、何卒宜しく願いいたします。

## **Veranstaltungsinformationen der DAAD-Außenstelle Tokyo**

Im April und Mai finden folgende Online-Veranstaltungen statt. Weitere Informationen finden Sie unter den jeweils genannten Links.

### **1. 08.04.2021: Online-Seminar zum Studium in Deutschland**

Jeden Monat veranstaltet die Außenstelle Tokyo ein Online-Seminar zum Thema „Studium in Deutschland“. Im April laden wir eine Masterstudentin ein, die an der Hochschule Fulda studiert und von ihren Erfahrungen berichten wird. Bei dieser Veranstaltung wird es sich insbesondere um den Unterschied zwischen Universitäten und Hochschulen für angewandte Wissenschaften/Fachhochschulen handeln. Weitere Informationen und Anmeldung:

[https://www.daad.jp/ja/2021/03/22/online-seminar\\_210408/](https://www.daad.jp/ja/2021/03/22/online-seminar_210408/)

### **2. 20.-22.04.2021 : Online-Hochschulpräsentationen**

Vom 20.-22. April stellen jeden Tag verschiedene deutsche Hochschulen ihre Studienprogramme vor. Während der Präsentation können die Teilnehmer\*innen per Chat Fragen stellen. Weitere Informationen und Anmeldung: <https://www.daad.jp/qCWc7>

### **3. 07./08.05.2021: Virtuelles Fortbildungsseminar „Fremdsprachen digital unterrichten – mit Sinn, Freude und Verstand“**

Wir möchten Sie herzlich zu einem virtuellen Fortbildungsseminar mit Herrn Prof. Dr. Jörg Roche und Frau Isabel Hoffmann (LMU München) einladen:

**Rahmenthema:** Fremdsprachen digital unterrichten – mit Sinn, Freude und Verstand

**Termin:** 7./8. Mai 2021

**Veranstaltungssprache:** Deutsch (Fragen auf Japanisch sind möglich)

**Anmeldung** (erbeten bis 22.4. bzw. 6.5.): <https://www.daad.de/surveys/616378?lang=de>

#### **Programm:**

**Freitag, 7. Mai 2021, 18.00-20.00 Uhr (JST)**

Keynote-Vortrag „Über Sinn und Unsinn digitaler Medien im Fremdsprachenunterricht“ von Prof. Dr. Roche

**Samstag, 8. Mai 2021, 15.00-18.30 Uhr (JST)**

Dhoch3-Workshop zu Modul 3 mit Fokus auf medienbasierter Handlungsdidaktik sowie aktuellen Tools und Programmen für die Unterrichtspraxis (exklusiv für Kolleg\*innen in

Japan)

Ferner wird es vor der Veranstaltung die Möglichkeit geben, On-Demand-Videos rund um die Funktionalitäten der Dhoch3-Moodle-Plattform abzurufen sowie am Freitag vor dem Vortrag an einer Frage-Antwort-Stunde zu Moodle teilzunehmen.

Weitere Informationen finden Sie hier:

[https://www.daad.jp/files/2021/03/2021\\_Dhoch3\\_Japan\\_Programm.pdf](https://www.daad.jp/files/2021/03/2021_Dhoch3_Japan_Programm.pdf)

**Eine Teilnahme an einzelnen Programmpunkten ist ebenfalls möglich.**

Wir freuen uns auf Ihre Anmeldung!

+++

### **DAAD-Stipendienprogramme**

Derzeit sind die folgenden Stipendien ausgeschrieben. Bitte entnehmen Sie weitere Informationen zum jeweiligen Programm der Stipendienseite des DAAD Tokyo: <https://www.daad.jp/scholarships>

#### **1 . Forschungsstipendien (kurz) 【Frist: 08.04.2021】**

Zielgruppe: Doktorand\*innen und Postdocs

Dauer der Förderung: 1-6 Monate

Auswahlverfahren: Papierauswahl

#### **2 . Forschungsaufenthalte für Hochschullehrer und Wissenschaftler 【 Frist: 08.04.2021】**

Zielgruppe: Hochschullehrer\*innen & Wissenschaftler\*innen, die an einer japanischen Hochschule tätig sind

Dauer der Förderung: 1-3 Monate

Auswahlverfahren: Papierauswahl

#### **3 . Wiedereinladung ehemaliger DAAD-Stipendiaten 【Frist: 08.04.2021】**

Zielgruppe: ehemalige DAAD-Stipendiat\*innen, die mehr als sechs Monate individuell gefördert wurden

Dauer der Förderung: 1-3 Monate

Auswahlverfahren: Papierauswahl

Bitte beachten Sie, dass aufgrund der weiteren Entwicklung der Covid-19-Pandemie Änderungen zu den oben genannten Angaben vorgenommen werden können. Aktuelle Informationen finden Sie auf unserer Website ([www.daad.jp](http://www.daad.jp)). Bei weiteren Fragen wenden Sie sich bitte an Herr Kurushima ([kurushima\\_AT\\_daadjp.com](mailto:kurushima_AT_daadjp.com) (\_AT\_ steht für @)).

## ゲーテ・インスティトゥート奨学金のお知らせ



ゲーテ・インスティトゥート（ドイツ文化センター）は、大学・高等専門学校・高等学校のドイツ語教育担当教員を対象に、ドイツ語教員向け奨学金プログラムを実施しています。**2022年度募集予定**のプログラムは以下の通りです。

1. ドイツ語教員のためのランデスクンデ・教授法ゼミナール（2週間）
2. ドイツ語学コース（2-4週間）
  - \* 研修期間中の研修費用がゲーテ・インスティトゥートより支給されます。ドイツで実施の場合はそれに加えて宿泊費全額，ならびに旅費の補助金が支給されます。

詳細は、2021年夏以降、ホームページの申込要領をご確認の上、**2021年10月10日**までにメールの添付でお送りください

### **IDT（Internationale Tagung der Deutschlehrerinnen und Deutschlehrer）**

2022年8月15日～22日で発表予定の方も奨学金にご応募いただけます。

応募締め切りは

**2021年6月1日**です。

詳細はこちらのサイトでご確認ください。

<https://www.goethe.de/ins/jp/ja/spr/unt/for/deu.html>

問い合わせ/申込：ゲーテ・インスティトゥート東京

ドイツ語教員研修支援プログラム係

**TEL:03-3584-3201** E-Mail: [stipendien-tokyo\\_AT\\_goethe.de](mailto:stipendien-tokyo_AT_goethe.de) (\_AT\_ steht für @)

## DEUTSCH LEHREN LERNEN



Als Antwort auf die veränderten Anforderungen der Lehrkräftequalifizierung hat das Goethe-Institut die Fort- und Weiterbildungsreihe DLL – Deutsch Lehren Lernen zur weltweiten Qualifizierung von Lehrkräften für Deutsch als Fremdsprache sowie Deutsch als Zweitsprache gemäß dem aktuellen fachdidaktischen Wissensstand entwickelt.

Fortbildungen mit DLL führen zu einer Aktualisierung des in der Ausbildung erworbenen Wissens, zu einer Erweiterung des fachdidaktischen Wissens und der Unterrichtskompetenz und zu einem Erwerb zusätzlicher formaler Qualifikation.

DLL richtet sich an Lehrende des Faches Deutsch als Fremdsprache im Primarbereich, in der Sekundarstufe und in der Erwachsenenbildung mit Unterrichtserfahrung. Die Teilnahme ist für DaF-Lehrende mit formaler Ausbildung oder ohne formale Ausbildung möglich. Voraussetzung für eine erfolgreiche Teilnahme sind Sprachkenntnisse auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen.

Das Goethe-Institut Tokyo bietet die DLL-Einheiten 1-6 in Form eines regionalen DLL-Zyklus regelmäßig an. Pro Jahr werden fünf Einheiten durchgeführt. Eine DLL-Einheit wird über einen Zeitraum von 9 Wochen bearbeitet und mit einem Praxiserkundungsprojekt (PEP) abgeschlossen.

**Mehr Information finden Sie hier: [Deutsch Lehren Lernen - Goethe-Institut Japan](#)**

Im Jahr 2021 wird für Deutschlehrende in ganz Japan in Form eines virtuellen Camps eine intensive Fortbildung zu „[Deutsch lehren lernen](#)“ (DLL) angeboten. Inhaltlicher Schwerpunkt sind die DLL-Basis-Einheiten 1-6.

Wenn Sie sich für Teil 2 anmelden möchten, schicken Sie bitte bis Freitag, den **30.7.2021**, eine Mail an Frau Tomoko Maruyama unter [Tomoko.Maruyama\\_AT\\_goethe.de](mailto:Tomoko.Maruyama_AT_goethe.de) (\_AT\_ steht für @).

## 一般社団法人日本独文学会岩崎奨学金（出版助成）のお知らせ

### 【奨学金の趣旨】

日本独文学会は、故岩崎英二郎先生のご遺族からいただいた寄付金で「日本独文学会岩崎奨学金」を創設し、若手研究者の研究成果公開のための奨学金制度を設けております。

### 【奨学金の概要】

1. 博士論文の出版に際して、テニユア職を持たない会員に対して、30万円を上限に出版費用の助成を行う。
2. 奨学金の支給は年度総額の上限を設定する（2021年度については60万円）。また、同一会員への支給は1回のみとする。
3. 募集は年度毎に行い、日本独文学会ホームページその他の手段で会員に広く公示する。
4. 奨学金は2021年4月より募集を開始する。
5. 奨学金の返済の義務はない。ただし、支給後に、申請対象の研究書の出版を中止した場合、受け取った奨学金を返還するものとする。
6. 他の出版助成を受けることは可能であるが、本奨学金と合わせて出版費用を超えないこと。
7. 奨学金を受けようとする者は、決められた書式の申請書類を日本独文学会事務局に提出する。
8. 審査は日本独文学会常任理事会内に設けた審査委員会が行う。審査委員会は、外部の専門家に審査を依頼することができる。審査の結果適当と認めた場合、奨学金を支給する。
9. 奨学金の原資を使い切った時点でこの事業を終了する。また、事情により、予告なしにこの事業を終了することもある。

### 【募集人数】

各年度2件～3件程度。

### 【応募資格】 以下の条件をすべて満たす者。

1. 日本独文学会員。
2. テニユア職を持たない者。

### 【応募方法】

1. 下記の必要書類を日本独文学会事務局へ郵送する。a) と b) に関しては同時にファイルを電子メールで [hojofat@jgg.jp](mailto:hojofat@jgg.jp) 宛に送付する。
2. 応募締め切り：毎年 6 月 30 日
  - a) 奨学金申請書（3 種類）、学会ウェブサイトから入手
  - b) 原稿
  - c) 誓約書、学会ウェブサイトから入手
  - d) 博士論文の審査に合格したことを証明する文書

### 【選考方法】

1. 提出された申請書を日本独文学会常任理事会内に設置する審査委員会で審査する。
2. 必要に応じて、審査委員会外の専門家に審査を依頼することがある。
3. 申請から 3 ヶ月程度で申請者に採否を通知する。

### 【その他】

1. 奨学金内定の通知を受けた申請者は、刊行期日および販売価格等の予定を確認する刊行確約書を提出すること。
2. 刊行物に、日本独文学会岩崎奨学金の助成により出版された旨を明記すること。
3. 内定の翌年 3 月 15 日までに刊行し、同月末日までに刊行報告書および完成本 1 部を本会に寄贈すること。

### 奨学金審査刊行スケジュール

- ① 申請書（岩崎奨学金出版助成申請書（1）（2）（3）」の提出（6 月 30 日）
- ② 審査結果の通知（同年 9 月 15 日まで）
- ③ 見積もり書あるいは請求書の提出（同年 9 月末まで）
- ④ 刊行（翌 3 月 15 日まで）
- ⑤ 刊行報告書および完成本一冊の提出（翌 3 月末まで）
- ⑥ 助成金の支給（出版社へないしは（立て替えの場合は）本人への振り込み）

なお、2020 年度は、馬場大介氏の「近代日本文学史記述のハイブリッドな一起源：カール・フローレンツ『日本文学史』における日独の学術文化接触」に出版助成が授与されました。次ページにその報告書を記載します。

一般社団法人日本独文学会岩崎奨学金刊行助成報告書

2020年12月28日

氏名： 馬場 大介

著者・書名	著者：馬場大介 書名：近代日本文学史記述のハイブリッドな一起源：カール・フローレンツ『日本文学史』における日独の学術文化接触
出版社	三元社
発行年月日	2020年12月20日
概要	<p>本書は、日独の学術交流における接触という側面を主題としている。具体的な論述対象として、日本のドイツ文学とドイツの日本学の開祖とされる帝国大学教師のカール・フローレンツ（1865–1939）が、来日して18年目に刊行した『日本文学史』（1906年）を扱っている。この文学史の記述を検証し、フローレンツの同僚や弟子にあたる日本人の協力がもたらした国学・国文学の知識と、彼自身が習得していたドイツ文学史の記述方法・言語研究の概念が、どのように混ざり合い、変形していくのかを論じている。その際、フローレンツが日本文学とドイツ文学の間で見出している類似性と相違点が、彼が日独のどのような要素を取捨選択しているのかを解釈する鍵になる。本書は、日独のフローレンツ研究を整理し、ポストコロニアルの文化論としての立場を打ち出した序論にくわえ、4章で構成される。第1章では、フローレンツの経歴、日本人による研究協力、明治時代の日本文学史起草の動向について記述している。第2章では、『日本文学史』のコンセプトと時代別の記述を追跡しつつ、フローレンツが文学作品を具体的に評論している箇所を、日独の学術的伝統に属する言説に関連づけて論じている。第3章では、このハイブリッドな文学史記述の成立に関わる限りで、19世紀のドイツ・ゲルマニスティク、フローレンツが来日前に学んだライプツィヒ大学の東洋言語研究科、明治時代の国学をめぐる理論・制度史を素描している。第4章では、論述全体を総括し、現代の日本文学研究の起源に関わる日独のハイブリッドな動向を解釈する意義を、学際的に問うている。</p>

## 第 18 回日本独文学会・DAAD 賞選考結果

第 18 回日本独文学会・DAAD 賞が下記のように決定しましたので、お知らせいたします。

### 日本語研究書部門：

須藤温子：『エリアス・カネッティ——生涯と著作』（月曜社，2019 年）

### 日本語論文部門：

徳永恭子：「移動の文学——ランスマイアーの『スラバヤへの道』に関して」（『ドイツ文学』158 号）

### ドイツ語研究書部門：

該当なし。

### ドイツ語論文部門：

Isamitsu MURAYAMA: Intermediale Wechselwirkung von Text und Bild zur Stilisierung einer idealen Märchenerzählerin. (Fabula. Zeitschrift für Erzählforschung, Bd. 60)

Soichiro ITODA: Nietzsches *Idyllen aus Messina*: Zu einer neuen kritischen Lektüre. In: Ralph Häfner u.a. (Hg.): Nietzsches Literaturen. (Berlin: De Gruyter 2019)

次の方々に選考委員をお願いしました。（敬称略）

日本語部門 委員長：桑原聡

委員：尾張充典，糸川麻里生，田丸理砂（副委員長），古矢晋一（運営委員・DAAD 推薦），吉田耕太郎

ドイツ語部門 委員長：高橋義人

委員：武田利勝（運営委員），細見和之（副委員長），Thomas Pekar（DAAD 推薦）

## 日本独文学会 2020 年度秋季研究発表会報告

2020 年秋季研究発表会は 10 月 17 日および 18 日に富山大学で実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大をうけて 11 月 21 日および 22 日両日、オンラインにおいて開催され、非会員からは 13 名の参加者があった。

研究発表会の内訳はシンポジウム 6 本、口頭発表 9 本であり、初のオンライン開催ということで事前の発表内容公表と当日の討論というハイブリッド形式で行われた。なお、今回はポスター発表およびブース発表は応募を中止した。また、口頭発表・シンポジウムと並行して、朝日出版社・郁文堂・三修社・第三書房・同学社・白水社・ひつじ書房各書店によるオンラインブースが設けられた。

(企画担当)

## 語学ゼミナール・オンライン 2020 報告

2020年の語学ゼミナールは、コロナ禍で招待講師の入国が叶わなくなったことに伴い、予定していた内容を直前に変更し、「語学ゼミナール・オンライン 2020」として遠隔会議方式で催した。例年のような総合テーマは掲げなかったものの、本来、京都にお越しいただくはずだったシュトゥットガルト大学 Daniel Hole 教授を引き続き基調講演者としてお招きし、2020年8月31日(月)～9月3日(木)の4日間にわたって開催することができた。

以下にゼミナールの参加者および最終的なプログラムを掲げる。

招待講師： Prof. Dr. Daniel Hole (Universität Stuttgart)

一般参加者 (50音順)：

アーント沙羅 (京都大学・院生), 別府陽子 (大阪大谷大学), \*大喜祐太 (三重大学), 段上佳代 (関西学院大学), Shelley Ching-yu Depner (National Cheng Kung University), 藤井俊吾 (東京大学・院生), \*\*藤縄康弘 (東京外国語大学), 生駒美喜 (早稲田大学), \*稲葉治朗 (東京大学), 井坂ゆかり (東京外国語大学・院生), \*板倉歌 (日本大学), 伊藤克将 (上智大学), 小林大志 (東京外国語大学), 松本蒼来 (慶應義塾大学・院生), 光井直哉 (慶應義塾大学・院生), 森芳樹 (東京大学), 室井禎之 (早稲田大学), 成田節 (東京外国語大学), 仁科陽江 (広島大学), 信國萌 (大阪市立大学), 小川暁夫 (関西学院大学), \*小川敦 (大阪大学), \*Manuela Sato-Prinz (DAAD Tokyo), Markus Rude (筑波大学), Maria Gabriela Schmidt (日本大学), 末松淑美 (国立音楽大学), \*高橋美穂 (東北大学), \*\*\*高橋亮介 (上智大学), 高畑明里 (東京大学・院生), 武和磨 (日本大学・学部生), 田中一嘉 (群馬大学), 田中愼 (慶應義塾大学), \*時田伊津子 (日本大学), \*筒井友弥 (京都外国語大学), 山崎祐人 (東京大学・院生), 横田詩織 (慶應義塾大学・院生), 吉田光演 (広島大学)

\*\*\*担当理事, \*\*実行委員長, \*実行委員

プログラム：

8月31日	16:00-18:00	開会, 会長あいさつ, Hole 教授基調講演
9月1日	16:00-19:00	一般研究発表 I
9月2日	16:00-19:00	一般研究発表 II
9月3日	16:00-17:30	一般研究発表 III

参加者 37 名のうち 8 名が大学院生, 1 名が学部生であった。ゼミナール開催にあたっては DAAD に多大なご支援をいただいた。ここに記して謝意を表すもので

ある。

Hole 教授には、初日に「Die stativ Lokativalternation des Deutschen und theta-induzierte Bindung in Argumentalternationen (ドイツ語の状態を表す場所格交替と項交替における主題役割が導き出す束縛)」という題目で基調講演をしていただいた。以下では、この講演の内容を要約して報告し、参加できなかった会員とも広く情報を共有することにしたい。

講演題目にある「場所格交替」とは、(1a) に対する (1b) のような構文的交替現象を指す。ドイツ語の場合、存在対象を主語とする (1a) と異なり、(1b) で場所が主語で表現されると、対象のほうは *voller* または *voll mit* + 物質名詞または可算名詞複数形の表現に成り下がる：

- (1) a. Kartons stehen im Gang.
- b. Der Gang steht voll mit Kartons.

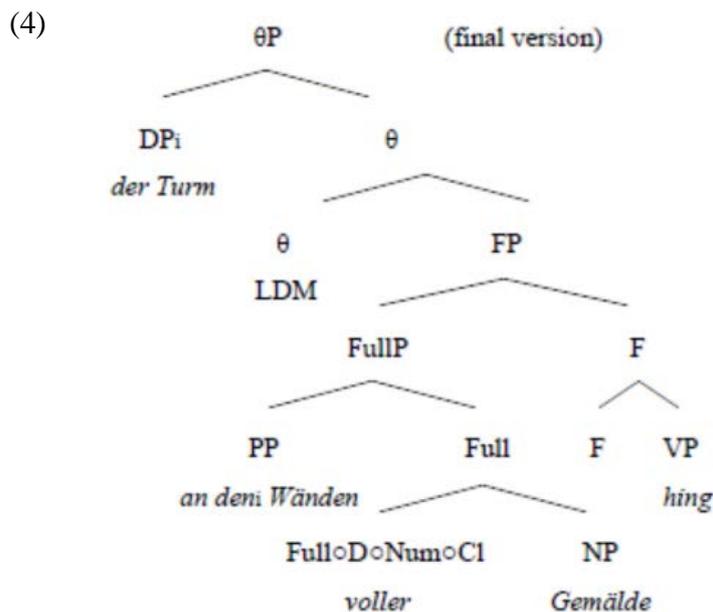
このような交替が起こるのは、Kaufmann (1995) の言うとおりの *stehen, liegen, sitzen* などの位置動詞による対象の静止状態表現に限定される。静止状態でなく移動が意図される場合、とりわけ移動空間が明確に区切られない (2) のような場合には同様の表現は成り立たない：

- (2) \*Die Luft schwebte voll mit Ballons.

また、場所格交替による (3a) は必ずしも (3b) を含意しない。むしろ、(3c) の丸括弧で示したような下部構造が想定され、そこには主語と同一指示の所有者が (不可視の) 束縛変項として含まれていると捉えられる：

- (3) a. Der Raum hing voll mit Gemälden.
- b. Der Raum war voll mit Gemälden.
- c. Der Raum hing (an den Wänden) voll mit Gemälden.

場所格交替に関する先行研究 (Mulder & Wehrmann 1989, Hoekstra & Mulder 1990, Bücking & Buscher 2015 など) は決して数多くないが、Hole 教授はそれらの要点と問題点をひとつひとつ確認したのち、最終的に (4) を自身の対案として提示した：



(4) では、補部に動詞句、指定部に voll 句を擁する機能範疇 F を想定した上で、この F による最大投射 FP を補部とし、かつ FP 指定部の voll 句に含まれる場所項 (an den Wänden) の「ランドマーク」に相当する項を全体の指定部 (つまり、全文の主語) へと取り立てる機能を有した  $\theta$  を主要部とする分析が示されている。F と  $\theta$  による二重シェル構造、および双方の指定部の間に「ターゲットーランドマーク」という認知的関係に基づいて成り立つ束縛によって、先行研究に指摘される問題点 (例えば an den Wänden の任意性) がもっとも無理なく解決されると考えられる。

さらに、そのエッセンスは、場所格交替に限らず、(5)~(9) のようなさまざまな交替現象に対しても応用可能性を秘めていることも紹介された：

(5) *Haben-Stativ*

- a. Der Arzt verbindet Paula den Arm.
- b. Paula hat den Arm verbunden.

(6) Inanimate lokativische *have-Alternation*

- a. There were books on no shelf.
- b. No shelf had a book on it.

(7) Lokations-Subjekt-Alternation

- a. Five people sleep in each room.
- b. Each room sleeps five people (in it).

(8) Gespaltener-Stimulus-Alternation

- a. Der Stil von jedem Artikel beeindruckte ihn.

b. Jeder Artikel beeindruckte ihn mit seinem Stil.

(9) Prädikativalternation

a. Leas Beruf ist Schauspielerin.

b. Lea ist Schauspielerin von (ihrem) Beruf (her).

ゼミナール 2~4 日目には、参加者による計 10 本の発表が行われた。聴衆から積極的に質問や意見が出されたのはもちろんのこと、Hole 教授からも有益なコメントやアドバイスが発表者、特に若手発表者に対してなされ、非常に活発な議論が交わされた。

以上のように、語学ゼミナール・オンライン 2020 は遠隔会議方式に伴うトラブルらしいトラブルもなく、全プログラムを成功裡に終了することができた。招待講師の Hole 教授をはじめ、参加者各位、実行委員各位、また日頃より語学ゼミナールの活動を支援してくださっているすべての学会員みなさまに、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

(文責：藤縄康弘)

## 日本独文学会研究叢書既刊一覧

- Nr. 141 天国への階段 オーストリア文学における故郷表象の虚構性  
[Stiege zum Himmelreich. Fiktionalität des Heimatbilds in der  
österreichischen Literatur]  
編集者：前田佳一  
執筆者：日名淳裕，石橋奈智，杉山有紀子，前田佳一  
発行日：2020. 10. 17
- Nr. 142 誕生，始まりのディスクール — 変革と転換の文学的表現 —  
[Diskurs der Geburt und des Anfangs – Momente und Motive der  
Neugestaltung und Umstellung in der Literatur –]  
編集者：磯崎康太郎，岩崎大輔  
執筆者：岩崎大輔，本田博之，加藤恵哉，磯崎康太郎，眞鍋正紀  
発行日：2020. 10. 17
- Nr. 143 中世的身体イメージと遊戯性—宮廷文化に内在する逸脱の傾向  
[Die Vorstellung des mittelalterlichen Körpers und das Spielerische – eine der  
höfischen Kultur immanente Tendenz zur Abweichung]  
編集者：嶋崎啓  
執筆者：渡邊徳明，高名康文，伊藤亮平，嶋崎啓，Asuka Yamazaki,  
陶久明日香  
発行日：2020. 10. 17

## 2020 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告

### 1. 本講座の運営について

ドイツ語教育部会，東京ドイツ文化センターとの共催で開催している「ドイツ語教員養成・研修講座」は，2019 年 10 月から慶應義塾大学日吉キャンパス（関東会場）と甲南大学岡本キャンパス（関西会場）の 2 会場をテレビ会議システムで結ぶかたちで行っている。なお，今期から Zoom により会場外からの参加も可能となっているが，コロナ禍の影響により，2020 年 4 月以降のすべてのワークショップを Zoom により開催している。受講者は，ワークショップへの参加に加え，各モジュールのテーマについてレポートを作成し提出することが求められる。また，専用のプラットフォームである Moodle 上では，受講者同士，また受講者と講師の間でドイツ語教育をめぐるディスカッションが展開され，受講者・講師双方にとって，ドイツ語教育について再考する刺激的な議論の場となっている。

### 2. 2019 年秋開講のコースについて

2019 年秋開講のコースは，前期が 2019 年 10 月から 2020 年 7 月までの 8 回のワークショップで 7 モジュール，後期が 2020 年 10 月から 2021 年 9 月までの 8 回のワークショップで 4 モジュールならびに *Deutsch Lehren Lernen 4*（以下 DLL 4）の課題，計 11 のモジュールからなる。後期コースには 14 名（関東会場 8 名，関西会場 6 名）の受講者が参加し，2021 年 2 月の時点で第 4 回ワークショップまで終了した。

後期コースのワークショップ開催日，モジュールのテーマならびに講師は以下のとおりである。

後期コース(2020年10月—2021年9月)

ワークショップ	日付	ワークショップとモジュールのテーマ	
		前半	後半
1	10月10日	外部講師による講演	<b>M8:</b> 様々なメディアと ICT の導入 境一三, 岩居弘樹
2	11月14日 11月15日	DLL 4 導入ワークショップ Monika Haas	
3	12月19日	M8 のレポートの評価と 討論	<b>M9:</b> テストと評価 太田達也, 坂本真一
4	1月30日	M9 のレポートの評価と 討論	DLL 4, PEP の準備 Monika Haas
5	4月	DLL 4, PEP の準備	<b>M10:</b> 動機づけと意識調査 藤原三枝子, 吉村創
6	5月または 6月	Praxiserkundungsprojekt (PEP) プレゼンテーション	
7	7月	M10 のレポートの評価と 討論	<b>M11:</b> カリキュラムとシラバス 草本晶, 松岡幸司
8	9月	M11 のレポートの評価と 討論	講座の総括

## 支部報告

### 北海道支部

2020年12月12日にオンラインで総会と第88回研究発表会が開催され、以下の2つの発表が行われた。

1. シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州における低地ドイツ語の言語擁護  
覚知頌春
  2. 希代の教育者 デュッセルドルフ芸術アカデミー教授ヨーゼフ・ボイス  
前原真吾
- 参加者は28名であった。  
(文責 北原寛子)

### 北陸支部

○日本独文学会北陸支部総会

日時：2020年11月29日(土) 13:30-14:30

場所：富山大学人文学部4F ドイツ言語文化演習室 (Zoom 会議)

(1) 座長推挙

(2) 支部活動総括

支部会誌 2021年2月刊行予定 『ドイツ語文化圏研究』第17号  
会員数44名(2020年11月28日時点)

(3) 会計報告および会計監査報告

(4) 理事会報告

(5) 審議事項

1. 次期当番地区について

福井・石川地区を次期当番地区とした。

2. 今後の支部学会の運営について

(6) 次期当番地区の決定および次期役員の選出

支部長：志村 恵(金沢大学)

常任幹事：佐藤文彦(金沢大学)

支部選出理事：磯崎康太郎(福井大学)

福井地区幹事：磯崎康太郎(福井大学)

富山地区幹事：名取基樹(富山大学)

新潟地区幹事：吉田治代(新潟大学)

監事：阿部美規(富山大学)

## 関東支部

○2020年12月13日（日）に第11回研究発表会をZoomによるリアルタイム配信で行い、6件の研究発表がなされた。発表者と題目は次の通り。

小野二葉：声の遠近——川上弘美『真鶴』の日独話法比較

清水恒志：小説はどこまで美を表現しうるか——E.T.A.ホフマン『騎士グルック』と『カロ風幻想絵画集』

相馬尚之：戦間期ドイツにおける進化論の射程——リ・トッコ『オートマタ時代』（1930）における一元論的世界観の表出

日名淳裕：イルゼ・アイヒンガー『贈られた助言』における「鏝」の主題

別府陽子：共苦の人・ゲルダ・ブッデنبローク——『ビルゼと私』をもとにして

山崎裕太：ニクラス・ルーマンの索引カード箱とコンピューター

○2021年3月に幹事選挙を行い、2022・2023年度の幹事が下記の通り決定した。

支部長：境一三

支部選出理事：浅井英樹

庶務：江口大輔・山本潤

会計：桂元嗣

広報：日名淳裕

## 東海支部

○支部会員数113名（2021年3月14日現在）

○2020年10月、機関誌『ドイツ文学研究』第52号を刊行した。

論文

1. 伊東麻衣「Das Motiv des Rokokoparks in Goethes „Lili's Park“」
2. 大塚直「亡命時代のボヘミアンたちのラプソディ——グラーフ、ブレヒト、ホルヴァートのミュンヘン時代とその後について——」
3. 王子能「Jesus und Satan als gegensätzliche Seiten Oskars – Über den Protagonisten Oskar in Günter Grass' *Die Blechtrommel*」
4. 山本順子「挑発としての芸術史——アヴァンギャルド理論のアクチュアリティ」
5. 田村建一「無生物主語他動構文の使用に関するヨーロッパ諸語間の対照研究」

—ルクセンブルク語に焦点をあてて—」

6. 太田達也「ドイツ語の定動詞の位置に関する明示的説明の効果」

研究エッセイ

1. 松井隆幸「ソフォクレス『アンティゴネー』のヘーゲル『精神現象学』による解釈について —アンティゴネーの有責性をめぐって—」
2. 毛利真実「メルヒェンからノヴェレへ —L. ティークの造語 ,Waldeinsamkeit‘ について—」
3. 鈴木康志「広告における命令文」

Neues aus dem deutschsprachigen Raum

末永豊「カレル・ゴットそしてラルフ・ジーゲル／ベルント・マイヌンガー ～ドイツのポピュラー音楽～」

○合評会

日時：2020年12月12日（土）10時より

場所：ビデオ会議 zoom を用いたオンライン会議

上記の機関誌に掲載された論文の合評会が開催され、論文執筆者3名を含む14名で活発な議論が行われた。

○2020年度日本独文学会東海支部総会・冬季研究発表会

日時：2020年12月12日（土）14時より

場所：ビデオ会議 zoom を用いたオンライン会議

1. 総会
2. 研究発表
  - 1) Marcus Conrad : Geschäft mit Büchern im 18. Jahrhundert – Das Verlagsarchiv Gebauer in Halle
  - 2) 石橋奈智 : ホーフマンスタールのテキストにおける塔のイメージと自我の解体—『塔』のための予備的考察
  - 3) Oliver Mayer : Online-Unterricht mit Hilfe von Chats interaktiv gestalten

○支部幹事の選挙

支部長および支部幹事のうち3名が改選された（開票は2020年12月12日、上記合評会の後）。任期は2021年1月から2年。

2021年1月9日に行われた幹事会で2021年の幹事の分担が以下のように決められた（下線が今回の当選者、下線なしは留任幹事）。

支部長： 長澤崇雄

支部選出理事：糸井川修  
庶務：北村陽子，大喜祐太  
会計：樋口恵，中川拓哉  
編集：梶浦直子，Oliver Mayer

## 京都支部

○会員数：146名（2021年1月25日現在）

○「Germanistik Kyoto」第21号発行（2020年7月30日）

○秋季研究発表会

視聴・閲覧期間：12月5日（土）10時～12月12日（土）12時

WEB発表研究会会場：<https://jggkyoto.org/meetings.html>（当会WEBサイト）

要旨発表・質疑応答／総会／役員選挙（Zoom開催）：12月12日（土）午後1時  
30分～

当日参加者：約20名（総会・選挙の事前投票は18名）

・発表：

1. 古英語と古ザクセン語における時を表す副詞的格の用法の比較  
—特に Tag と Nacht を中心に— 【動画方式】

中西志門氏（京都大学大学院生 人間・環境学研究科）

司会：田原憲和氏（立命館大学）

2. カフカの作品における写真と映画 【PDF方式】

山口知廣氏（近畿大学非常勤講師）

司会：藤原美沙氏（京都女子大学）

・総会：2019年度決算報告と2020年度予算案，各委員報告

・支部役員選挙の結果，次の役員が選出された。

支部長 今井敦（龍谷大学）

支部選出理事 吉村淳一（滋賀県立大学）

支部委員（7名）麻生陽子（大谷大学），宇和川雄（関西学院大学），金子哲太  
（京都外国語大学），児玉麻美（大阪府立大学），高岡智子（龍谷大学），  
筒井友弥（京都外国語大学），藤原美沙（京都女子大学）

○2021年度春季研究発表会の開催について

会場：立命館大学，日時（6月下旬～7月上旬）をいつにするか，形態をオンラ

インにするかどうかは継続審議。

## 阪神支部

### ○第 233 回研究発表会

日時： 2020 年 12 月 12 日（土）13:30～（オンライン開催）

参加者： 31 名

シンポジウム

「ウェルフェア・リングイステイクスと外国語教育—教育におけるインクルージョンはどうあるべきか」

導入：福岡麻子（東京都立大学）

1. 林良子（神戸大学）：日本語・ドイツ語教育におけるウェルフェア・リングイステイクス
2. 小川敦（大阪大学）：多言語社会ルクセンブルクにおける移民背景を持つ子へのドイツ語教育と課題
3. 齊藤公輔（中京大学）：日本の高等教育機関における障害学生の現状と実践

○2021 年 2 月 23 日現在の会員数は 238 名

## 中国四国支部

○2020 年 10 月 23 日 機関誌『ドイツ文学論集』53 を発行した。

論文

1. Anette Schilling: Ulrich Plenzdorf: *Die neuen Leiden des jungen W.*  
—Vorschläge zur Bearbeitung des Romans im Deutsch-als-Fremdsprache-Unterricht
2. 渡辺 将尚：抑圧されたアイデンティティ — 反フィッシャー論者の言説から見た「フィッシャー論争」
3. 杉林 周陽：正気を失わせる音楽の魔力  
クライストの『聖ツェツィーリエ』における「伝説」の諸相
4. Akira HOTTA: Klassizismus und Modernitätsbewusstsein in der deutschsprachigen Erzählliteratur zu Beginn des 20. Jahrhunderts

○2020 年 10 月 31 日 広島大学において Zoom によるオンライン形式で中国四国支部第 69 回総会ならびに研究発表会を開催した。参加者 28 名。

幹事会 (11:00~12:00)

総会 (13:00~13:30)

1. 支部幹事・役員交替について原案のとおり承認した。

役員・幹事 (2020年11月より)

支部長 最上 英明 (香川大学)

支部選出理事 井戸 慶治 (徳島大学) \*2021年6月より

地区幹事 【四国】松尾 博史 (松山大学)

【岡山・鳥取】由比 俊行 (岡山大学)

【広島・島根】今道 晴彦 (広島大学)

庶務 斎藤 昌人 (高知大学)

編集委員会 [委員長] 松尾 博史 (松山大学)

[副委員長] 黒田 晴之 (松山大学)

会計 伊藤 亮平 (松山大学)

2. 決算および予算について原案のとおり承認した。

3. 2021年、2022年および2023年の支部幹事会・総会・研究発表会は、それぞれ愛媛地区、岡山地区、徳島地区での開催に向けて調整を進めることが確認された。

研究発表会 (13:40~16:00)

(司会: 小林 英起子 / 古川 昌文)

1. 川野 正嗣: 自動車に乗った聖人? — エルンスト・ユンガーにおけるモデルネの宗教

2. 木田 綾子: ヴィーラントと世界文学

3. 伊藤 亮平: ナイトハルトのリートにおける老年期のモチーフについて

4. Hans-Michael Schlarb: Facetten des Ressentiments in Fontanes *Cécile*

○2020年10月1日現在の会員数は84名 + 賛助会員5社。

西日本支部

○2020年11月1日 支部学会誌『西日本ドイツ文学』第32号発行。掲載論文は以下のとおり。

## 論文

胡屋 武志：ディオティーマの憑依

— フリードリヒ・シュレーゲルの詩学における熱狂と靈感，そして犠牲の概念 —

大澤 遼可：ノヴァーリスにおける「質的遠近法」

— 「一冊の書物に宇宙を見出すこと」 —

林 弘晃：アイデア，エクスターゼ，自我

— 若きヘルマン・ブロッホの美学理論 —

杵渕 博樹：他者との出会いと開かれた土着性

— クレメンス・マイヤー『静かなる衛星』 —

## 研究ノート

佐々木博康：カフカの『歌姫ジョゼフィーヌ，あるいはネズミ族』

— これまでどう解釈されてきたか —

○2020年11月7日 熊本大学オンライン会場にて日本独文学会西日本支部第72

回総会・研究発表会を開催。参加者48名。

研究発表タイトルと発表者は以下のとおり。

1. ナチス時代のベストセラーについて 竹岡健一
2. J・ゲレスの初期思想におけるメディア，公衆，世論 須藤秀平
3. 「遊戯は大事な瑣事である」— グーツムーツの遊戯論 田口武史
4. 日本とスイスのユニバーシティ・ミュージアムの比較 大島裕梨

○会員数（2020年10月1日現在）：149名

## ドイツ語教育部会報告

### 1. 編集

『ドイツ語教育』第25号を2020年3月20日に発行した（編集長：鷺巣由美子幹事）。第25号では特集「オンライン授業」およびフォーラム「オンライン授業の工夫」を組んだ。

### 2. 部会長

- 1) 2020年10月31日～11月1日に開催された「多言語教育の意義とは？－外国語学習・教育研究に関する国際シンポジウム」（ゲーテ・インスティトゥート東京・ドイツ学術交流会東京事務所主催）にアカデミック・アドバイザーとして参加し、2日目の全体会（パネルディスカッション）の司会を務めた。
- 2) 大学入学共通テストにおける英語以外の外国語科目削減の可能性に言及する報道があったことを受け、2020年11月30日付で、独立行政法人大学入試センター理事長宛に、高等学校ドイツ語教育研究会会長と教育部会長の連名で「大学入学共通テストにおける外国語科目の取り扱いに関する要望書」を送付した。文面は教育部会ホームページ内の会員向けページに掲載している。

### 3. 企画

- 1) 2020年6月6日（土）に開催予定であった教育部会主催講演会は、日本独文学会2020年春季研究発表会（東京大学）が中止となったことに伴い、中止となった。
- 2) 2020年8月30日（日）14:00～16:00にZoomにてオンラインイベントを開催した。  
講師：岩居弘樹氏（大阪大学）・大前智美氏（大阪大学）  
題目：「オンライン授業の解説－リアルタイム方式とオンデマンド方式のコツを伝授します！」
- 3) JaF-DaF Forum 実行委員会が主催で2021年3月7日（日）に開催された第8回JaF-DaFフォーラムを共催した。

### 4. 大学入試問題検討委員会

- 1) 独立行政法人大学入試センターからの依頼に基づき、大学入試問題検討委員会は、「令和3年度大学入学共通テスト（ドイツ語）の試験問題に関する意見・評価」（本試験および追試験）を太田達也部会長の名義で作成し、2021年2月26日付けで大学入試センターに提出した。評価書の作成は、太田達也部会長

の他、野村幸宏幹事、田中雅敏幹事、牛山さおり、山田香織の各委員が担当した。

- 1) 2020年日本独文学会春季研究発表会1日目と2日目に予定していた2020年度大学入試問題の展示は、学会の中止に伴い、中止となった。

#### 4. ドイツ語教員養成・研修講座

日本独文学会および東京ドイツ文化センターとの共催で開催されている「ドイツ語教員養成・研修講座」は、2019年10月より関東会場（慶應義塾大学日吉キャンパス）および関西会場（甲南大学岡本キャンパス）を会場として開催されている。参加者は関東会場10名、関西会場8名である。

ただし、2020年4月のワークショップからは、コロナウイルス感染拡大のため、暫定的にZoomによるオンライン開催となっている。

会員数（2021年1月15日現在）は、正会員468名、準会員69名、賛助会員：10団体の計547名／団体である。

<文責 境一三>

## ドイツ語学文学振興会より

### 第 61 回ドイツ語学文学振興会賞選考について

第 61 回ドイツ語学文学振興会賞は、Infoblatt 編集時において審査委員会で審議中です。審査結果は、結果が判明し次第、ドイツ語学文学振興会ウェブサイト (<http://www.dokken.or.jp/foundation/>) でお知らせする予定です。なお、授賞式についても、同ウェブサイトでお知らせする予定です。

なお、本賞の趣旨は日本国内における若手のドイツ語学文学研究者による優れた業績の発掘にあります。しかし近年『ドイツ文学』以外の研究誌に掲載された論文の応募が少なくなっており、授賞にふさわしい研究が埋もれていることが懸念されます。

そこで振興会としましては、日本独文学会会員からの積極的なご推薦をお願いしたく存じます。ご指導に当たられていたり、お知り合いでいらっしゃる若手研究者の優れた論文をお目にされましたら、是非ご推挙ください。

(文責：武井隆道)

## 2020 年度全国大学院 Germanistik 関係論文題目

大学名および氏名は 50 音順です。学位取得は、断り書きがない場合は、2020 年度下半期をあらわします。

### 博士論文

#### Julius-Maximilians-Universität Würzburg

橘 宏亮：Das souveräne Volk im Ausnahmezustand. Zum Bild des Gemeinwesens in Heinrich von Kleists politischen Texten aus den Jahren 1808/1809  
(2020 年度上半期)

#### 関西学院大学大学院

段上 佳代：Eine semantische Untersuchung zu Partikel- und Präfixverben mit *um*

#### 京都大学大学院人間・環境学研究科

大形 綾：ハンナ・アーレントとニューヨーク知識人の知的交流史 (下半期)  
木村 英莉子：付加疑問の相互行為的機能についての一考察—コミュニケーション上での言語の働きについて的一端— (上半期)  
牧野 広樹：青年音楽運動の思想圏 (上半期)

#### 京都大学大学院文学研究科

益 敏郎：後期ヘルダーリンの詩作と悲劇論の研究 —詩的多面性の理解に向けて—  
森口 大地：ドイツ語圏を中心とした初期ヴァンパイア文学史 —セルビアの事件からルスヴン卿の後継者まで—

#### 東京大学大学院総合文化研究科

城本 春佳：日本語連体修飾節とドイツ語関係節の対照研究

#### 東京外国語大学大学院

小林 大志：ドイツ語の名詞化における項実現の統語論的・意味論的原理：名詞項と指示同定の関係に注目して (2020 年度上半期)

## 早稲田大学大学院

荒井 泰: 救済のイコノロジー ハンス＝ユルゲン・ジーバーベルク『ヒトラー、ドイツ生まれの映画』における表現のスタイルと観客の役割

## 修士論文

## 大阪大学大学院

上田 直輝: Verstehen des Niederdeutschen durch Sprecher des Standardhochdeutschen.  
Eine Fallstudie mit DaF-Lernern in Japan

## 大阪市立大学大学院

樋口 翔子: 冗語否定の文法的解釈について

## 関西大学大学院

福瀧 量子: エーリッヒ・ケストナー (Erich Kästner)の児童小説『飛ぶ教室 (Das fliegende Klassenzimmer)』においてケストナーが読者に伝えたかったこと

## 関西学院大学大学院

山中 玲: ドイツ語心態詞 *denn* — 「受け手に対する話し手の感情の喚起」の観点に基づく検証と分析

孫 伊雯 日・中・独・英におけるキャッチコピーの認知言語学的研究

## 京都大学大学院人間・環境学研究科

小川侑己: エリアス・カネッティにおける「文学的不死」の追求 — 『群衆と権力』の構造的破綻の視点から

下野 宗大: 家庭劇としての『フリードリヒ大王の悲しい物語』— 反ファシズム亡命作家ハインリヒ・マンの自己省察—

下村 恭太: ヴィラモヴィアン語における接続詞と人称代名詞の融合についての— 考察

中村 明日建: 『ドイツ悲劇の根源』における歴史叙述 — 歴史と自然, もしくは「歴史の本性」—

平井 葉月: グラフィカーの政治的表明 — 映画ポスターからみる東ドイツ社会

#### 京都大学大学院文学研究科

荒木 絵莉子：Der Weg zur übersinnlichen Welt in Michael Endes *Der Spiegel im Spiegel*.

*Ein Labyrinth* und der Zusammenhang mit Rudolf Steiner

杉山 東洋：Die Sprachverwirrung und „Ruhe in Bewegung“—Die Ambiguität des

Begriffs „Gesellschaft“ in Stifters *Der Nachsommer*—

ポルドウニャク，エドワルド：Theorie und Praxis der Märchendichtung bei Novalis

#### 東京大学大学院人文社会系研究科

高畠 一棋：フランツ・カフカ『息子たち』の生成過程

宮本 寿樹：トーマス・マンの「市民」批評 —市民的教養の同定と補完および「普遍的な関与」の導出—

#### 東京大学大学院総合文化研究科

高畑 明里：Complex verb formation in German long passive（ドイツ語の長距離受動構文における複合動詞形成）

渡邊 大祐：ドイツ語名詞化不定詞における項の実現について

#### 獨協大学大学院

植草あかね：過去と救済 —カフカ・ベンヤミン・ツェランにおける「メシア的なもの」—

#### 名古屋大学大学院

王 子能：Das von Oskar und seiner Familie reflektierte Christentum in Günter

Grass' *Die Blechtrommel*

#### 日本大学大学院

齊藤 華：ミュージカル『エリザベート』から読み解くエリザベートの姿

—キッシュなのは誰なのか—

#### 一橋大学大学院

清水 恵理：メンデルスゾーンのファンタジー —《幻想曲》（作品 28）の多面性と位置づけへの考察—

鳥井田 詩乃：フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディによる「第 3 のピアノ協奏曲」 —1840 年代前半にメンデルスゾーンが目指した「ピアノ協奏曲」

三浦 政治：マイスター・エックハルトにおける「創造」「誕生」そして「還帰」

広島大学大学院

長谷川 紳稔：Das Motiv der Zähne im Frühwerk Thomas Manns

## 訃 報

日本独文学会ならびにドイツ語教育界の発展にご尽力くださいました次の方が  
お亡くなりになりました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

Jörg Mauz 殿 (2020. 6. 19)

小栗 浩 殿 (2020. 10. 10)

古澤ゆう子 殿 (2020. 11. 12)

須藤 温子 殿 (2021.3.19)

中本 匡 殿 (2020. 9. 7)

中村 元保 殿 (2020. 10. 17)

福原嘉一郎 殿 (2021. 1. 21)

## あとがき

「ニュースレター」第4号（Info-Blatt 2021年春号）をお届けいたします。

新型コロナウイルスのパンデミックが社会生活のいろいろな場面で大きな影響を与えています。「コロナ前」のさまざまな慣習は、今は昔の感があります。学会活動もその例外ではなく、昨年以来、総会をはじめとして、研究発表会、各種ゼミナール、理事会などさまざまな学会の行事がオンライン化されました。昨秋の北陸支部担当の富山学会もオンラインで開催され、また本年春の東京大学での春季研究発表会もオンラインでの開催になります。幸いなことに、オンラインにおける研究発表会も企画、広報担当の理事や委員のご尽力もあり、非常に充実したものになっておりますし、また、オンライン開催の語学ゼミ（20年9月）や文化ゼミ、教授法ゼミ（いずれも21年3月）なども、各種制約の中、ゼミナール運営委員によってさまざまな工夫が凝らされ、部分的には対面によるゼミを凌ぐものになったと聞き及んでおります。

こういった一連のオンライン化の流れのひとつに、オンラインによるアンケートがあります。独文学会が抱える長年の数々の懸案事項の解決に際し学会員の皆様のご意見をできるだけ反映させるために、昨年12月以来、「機関誌について」、「名簿の発行について」、「ハラスメント対策について」と、三つのアンケートがオンラインで実施されました。これらは、学会活動の根幹に関わる問題であり、できるだけ多くの学会員の意見を反映させる必要があります。一方で、コストをかけて郵送によるアンケートを実施することには限界があり、また、その回収率も必ずしも高いものとはならないことが予想されます。そんな中、本理事会では、各担当の理事の方を中心に、オンラインによるアンケートを実施し、比較的多い回答を得ることができました（とは言っても各アンケートとも学会全体の20パーセントには届かない数字ですが）。これらのアンケート結果について今後、慎重に分析することになると思いますが、それぞれのアンケートにおいて、記述式を中心に多くの「生の声」が届けられました。もちろん、オンラインアンケートへの参加の条件が整わない方や、このような形のアンケートに対して抵抗のある方も多くいらっしゃるわけですから、オンラインアンケートは、学会員の一部の声を反映しているのみであると考えべきであり、これをもとに慎重な議論を進めていく必要があるわけですが、それでも、「機関誌」、「名簿」、「ハラスメント」といった大きな問題について、解決への議論をするための大きな一歩であるかと思えます。今期の理事会は間もなく任期を満了し、次期理事会に多くの議論を引き継ぐこととなりますが、これらの問題について、ある程度の方向性を示すことはできるのではないかと考えております。

低い投票率にあえいでいる理事候補者選挙も、オンラインの活用を議論する必要があるかもしれません。筆者の所属する関東支部においても、役員選挙がオンラインにより執り行われました。これに際し、選挙を管理された方々は大変な苦勞をなされたと聞いておりますが、全国学会でも今後、検討されるべきことかもしれません（もちろん 1000 を優に超える会員全体に確実な投票の権利を保障するためにはさまざまなハードルがあることは予想されますが）。いずれにせよ、オンライン化のプラス面を十分に生かすことによって、感染症対策や、財政の負担の軽減を行うだけではなく、学会のさまざまな問題について、広く会員が議論するためのプラットフォームを形成していくことができると考えます（この一貫として、現在広報委員会では、従来のメーリングリストに代わる意見交換の場を設定するために準備しております）。

とは言え、対面による、従来の対話の場としての学会行事（研究発表会、ゼミナール）の重要性は、今後も保たれると思います。秋の東北支部による研究発表会や夏の語学ゼミナールは、2021年4月現在、対面による開催を目指して準備されていると伺っております。私個人としては、近い将来に安心して対面で議論できる場が成立することを心から願っておりますが、同様に思われる学会員の方も多くいらっしゃると思います。それまで、**Bleiben Sie gesund!**

田中 慎

## 編集

一般社団法人 日本独文学会庶務委員会

宮田 眞治（委員長）

川島 建太郎（編集担当） 白井 智美（編集担当） 橘 宏亮（編集担当）

田中 慎（編集担当） 成田 節（編集担当）

## 編集・発行

一般社団法人 日本独文学会

170-0005 東京都豊島区南大塚

3-34-6 南大塚エースビル603

電話03-5950-1147

振替00160-9-135018

E-Mail（メールフォーム）：

<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

ニュースレター2021 年春号

JGG-Info-Blatt / Frühling 2021

2021 年 4 月 12 日発行